

山形・三条遺跡 さんじょう

- 1 所在地 山形県寒河江市大字寒河江字三条
- 2 調査期間 第三次調査 一九九六年(平8) 四月～一月
- 3 発掘機関 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 水戸弘美・佐竹桂一・植松暁彦・川田嘉信・長瀬えみ子

- 5 遺跡の種類 集落跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 縄文・弥生時代、奈良・平安時代、中世・近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(橋岡)

三条遺跡は、山形県のほぼ中央部に位置する寒河江市にある。寒河江市は、北部を東流する寒河江川と、南端で大きく流れを変える最上川に囲まれた地域に市街地が広がる。市街地南辺に東北横断自動車道酒田線が計画され、一九九四年度から緊急発掘調査が行なわれた。最上川の河岸段丘に位置し、丘陵部

全体が複合遺跡になっている高瀬山に、東西にトレンチを入れたような状況である。高瀬山を挟む調査総面積は二〇万㎡を越え、そのほぼ全域で八世紀後半～九世紀の建物などが検出されている。

三条遺跡は、この緊急発掘調査で確認した遺跡の一つで、高瀬山の東に面した緩やかな斜面上に広がる。「三条」の地名から条里の存在が推定されていたが、今回の調査では、奈良末～平安時代、江戸時代の水田跡が確認された。水田跡に面した西側のやや小高い地域には、奈良・平安時代の掘立柱建物と竪穴建物が四〇棟以上密集し、その居住域を南西から東に囲むように流れる河川が検出された。居住域と水田の間を縫うように流れる東側では、砂層の堆積によって、流路をほぼ同じくするSG一三四とSG三三三の二時期の河川が確認されており、木簡はこのうち古い方のSG三三三の河床から出土した。SG三三三は、幅約四～六m深さ〇・八m前後を測り、八世紀後半の遺物を多量に含む。札状の木製品が五点出土し、このうち一点に明瞭な墨痕が認められた。これらの河川から出土した八世紀後半～九世紀のものと考えられる須恵器・土師器・木製品は、遺物整理用コンテナで約二五〇箱分にのぼる。

木簡の以外の文字資料としては、四三〇点を越える墨書土器、六〇点を越える刻書土器が確認されている。墨書土器のうち約四〇〇点が河川からの出土で、須恵器の杯・蓋の転用硯約四〇点が共伴している。確認できる文字は約六〇種あり、そのほとんどが一文字で

ある。点数の多いものとしては、「奉」「子(写?)」「山田」「荒」

「井」「丈」「王」などがある。この他、「品選」「郡」「坂合」「大神

一」「奥(興)代」「丈部田(?)」などが注目される。刻書には、

「大」「×」「川」などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) □五日田主大伴部廣□

(33)×(4)×4 081

上下端とも欠損し、全体的に腐蝕しているため原形は不明である。なお、木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9 関係文献

〔山形県埋蔵文化財センター〕『三条遺跡第三次調査説明資料』

(一九九六年)

水戸弘美「土器に墨書する意味を探る―山形県における奈良・平安時代の墨書土器出土状況集成―」(『さあべい』一五 一九九八年)

(水戸弘美)



山形・上高田遺跡

かみたかだ

1 所在地 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字上家ノ前

2 調査期間 第三次調査 一九九七年(平9)五月〜七月

3 発掘機関 (財)山形県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 齋藤 健・飯塚 稔

5 遺跡の種類 集落跡・河道跡

6 遺跡の年代 平安時代・中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上高田遺跡は、山形県の北西部、秋田県境に近い遊佐町に所在し、

古代出羽国府擬定地である城輪柵跡の北約六kmに位置する。周辺は

月光川、庄内高瀬川などに

より形成された沖積平野で、

遺跡は自然堤防上の微高地

に立地している。

上高田遺跡の調査は、こ

れまでに一九九四年に圃場

整備事業関連による第一次

調査が、一九九六年に国道

三四五号改築工事による第



(吹 浦)